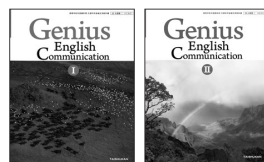


Genius English Communication I, II

お勧め教材のご紹介



■ Genius I

L 1 A Village of One Hundred 〈世界情勢〉

Genius シリーズの巻頭を飾るのは、ベストセラーにもなった『世界がもし100人の村だったら』を原案とした書き下ろし教材です。この課は「100人の村」に住む高校生が自分の村を紹介するという設定で、世界の現状や問題点を身近なものとしてとらえるのと同時に、これからこの教科書で取り上げていくテーマ——教育、異文化理解、環境破壊、経済の不均衡、資源、など——への導入の役割も果たしています。

L 5 Alex's Lemonade Stand 〈ボランティア〉

「レモネードの日」をご存知ですか？ アメリカでは子どもたちがお小遣い稼ぎに近所の人にレモネードを売ることがよくあります。しかし、「レモネードの日」には、世界中のボランティアがレモネードを売ったりして、その収益を小児癌撲滅の活動に役立てるのです。それを始めたのが、小児癌でわずか8歳で亡くなったアレックスという少女です。小さな少女の勇気と行動力が多くの人々の共感を呼び、世界各国で募金が集まる大きな活動へと広がっていきました。

L 9 Coffee and Fair Trade 〈経済〉

コーヒーは世界中に広まっていて、1日約25億杯も消費されています。しかし、コーヒー産業には多大な経済的不平等が存在します。消費者の払う価格のほんの数パーセントしかコーヒー豆の生産者に行き渡らず、その大部分は先進国の業者の懐に入っているのです。この不均衡を解消する一つの方法が、「フェアトレード」という考え方です。これは労働者の権利を守るだけでなく、生産による環境破壊なども防ぐ取り組みです。

■ Genius II

L 3 Nature Technology 〈科学技術〉

エアコンのいらない家、汚れが水だけで落ちる壁——こんな夢のような技術の裏側には「自然の知恵」が生きています。動植物が環境に適応してきたその仕組みを観察してそれを応用することで、便利でありながら地球に優しい生活が実現できるのです。46億年もの地球の叡智を活かし、環境と人間が共存できる科学技術、それが「ネイチャー・テクノロジー」の考え方なのです。

L 5 The World of Miyazawa Kenji Is Our World 〈日本文学〉

宮沢賢治作品の英訳を数多く手がけてきたロジャー・パルバース氏による、本教科書オリジナルのエッセイ。賢治がその作品で描いてきたのは、人間と動物・自然との関わりであり、これからの人間に求められているのは、地球の支配者として君臨することではなく、自然の一部として生きることだと、パルバース氏は説きます。また、賢治が東北という地に根を下ろしていたことも、何かの偶然ではないのでしょうか。その視点で読み解けば、賢治の作品は21世紀に生きる私たちに、多くのことを語りかけてきます。

L 9 Michael J. Sandel on Kant: Freedom and Morality 〈哲学・生き方〉

ハーバード大学サンデル教授の著書『これからの「正義」の話をしよう』から、カントの説いた「自由」「倫理」「自律」を解説した一節を抜粋しました。大学進学動機やお釣りをごまかす店主など身近な例をあげながら、「自由とは何か」「真の自律とは」という問いに、深く迫っていきます。

(編集部)